

産後貧血に対するカルボキシマルトース第二鉄の有効性、安全性、コストベネフィットの検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川岡, 大才, 藤原, 回海勇, 加藤, 貴史, 内田, 季之, 鈴木, 勝英, 金崎, 晴菜, 岩崎, 一憲, 小田, 智昭, 成味, 恵, 松家, まどか, 松本, 雅子, 幸村, 友季子, 磯村, 直美, 田村, 直顕, 鈴木, 一有, 安部, 正和, 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004054

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 4>

産後貧血に対するカルボキシマルトース第二鉄の有効性、安全性、コストベネフィットの検討

1 浜松医科大学産婦人科、2 富士宮市立病院産婦人科

川岡 大才 1

藤原回海勇 2、加藤貴史 1、内田季之 1、鈴木勝英 1、金崎晴菜 1、岩崎一憲 1、小田智昭 1、成味恵 1、松家まどか 1、松本雅子 1、幸村友季子 1、磯村直美 1、田村直頭 1、鈴木一有 1、安部正和 1、伊東宏晃 1

【緒言】鉄欠乏性貧血治療薬として静注鉄剤であるカルボキシマルトース第二鉄 (FCM)が使用可能となった。当院の産後貧血症例に対する有用性を検討した。

【方法】妊娠 36 週以降に分娩となり、産後 1 日目にヘモグロビン (Hb) 9.0 g/dL 未満で輸血をしていない症例に 2021 年 1 月より FCM を使用した (FCM 群)。比較対象コントロール (C) として 2019 年 1 月から 2020 年 12 月までに糖酸化鉄注射液、経口鉄剤を用いて治療を行なった既存治療症例 (C 群) で比較検討した。治療効果判定は産後 2 週間健診の際に行なった。統計検定は Mann-Whitney's U test を用いた。

【結果】FCM 群 17 例 (帝王切開 (CS)8 例)、C 群 18 例 (CS9 例)であった。FCM は全例で 500 mg/回で 1 回のみの投与で、C 群は、糖酸化鉄注射液のみ 1 例 (12A 投与)、糖酸化鉄注射液投与 (2A-6A)後経口内服したのは 6 例、経口鉄剤のみ 11 例であった。年齢、分娩時出血量、Hb 値 (産褥 1 日)、Hb 増加値の中央値は FCM/C 群でそれぞれ 33 歳/33.5 歳、975 g/1325 g、7.8 g/dL/8.05 g/dL、3.1 g/dL/2.85 g/dL となり、両群間に統計学的有意差を認めなかった。分娩前 Hb 値を考慮した Hb 上昇率でも有意差はなかった。CS での麻酔症例を含むが、副作用は FCM 群で頭痛 2 例、C 群は頭痛 3 例、嘔気 4 例、皮疹 1 例であった。Hb1g/dL 上昇させるために要した薬価の中央値は FCM 群で 2002.1、C 群で 199.3 であり、有意に FCM 群は薬価が高い治療であった($p < 0.01$)。

【結論】FCM はより高価な治療となるが、分娩時輸液ルートを利用した 1 回投与のみで既存治療と比較し同等の効果が得られ、医療者・患者の負担を減らすため産後貧血の有用な治療選択肢になり得ると考えられた。